

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.22



★『キッズフェスタ2022 in 五所川原』大盛況でした！

9月11日に『キッズフェスタ2022 in 五所川原』が開催され、予想を上回る1,200人超の入場者でにぎわいました。

このイベントは、約3年前、子育て支援の一環として「子育てに関わる団体が一堂に会し、市を挙げて子どもイベントを開催したい」という私の構想に子育て支援団体のご賛同をいただき、実現の運びとなりました。民間団体で構成する実行委員会が主体となり、期待以上の成果を収めたことに大きな意義があると思います。

互いに顔の見えない関係で活動する団体が同じベクトルで一つになってこそ大きな力が発揮されます。今後も、年に1回はこうしたイベントを通じて、各団体の連携をより深めていただき、市全体でより厚みのある、「子育てに強いまちづくり」を進めていければと思っています。

★未来を担う子どもたちを「地域全体で扶養する」

少子化の進行に伴い、家族の形が核家族へと変化し、さらに共働きが一般的となっている状況の中、家庭での子育ての負担はますます大きくなっています。

「子どもは親が育てる」という固定観念から脱却し、地域の大人が子どもたちともしっかり関わることが今こそ求められていると思います。

私の少年時代は、野球、スキーなど多くのことを親だけでなく地域の大人たちから教えてもらい、子どもの成長の過程で地域社会が「家族」のように関わってくれたように感じます。

子どもを生み育てやすい社会づくりには、地域が連帯して子どもの健全な成長を支えることが不可欠であり、いわゆる「地域全体で扶養する」ことが子育ての原点であると思います。

また、若者の結婚観等の価値観が変化する中、子育てへの不安が大きな足かせになるなど、安心して生み育てられる地域社会づくりが少子化対策においても重要です。



『キッズフェスタ2022 in 五所川原』の様子

保護者の不安を少しでも和らげるため、地域社会、子育て支援団体等が子育ての主役となって、未来を担う子どもたちを「地域全体で扶養」してこそ、持続可能な地域社会の構築につながるものと確信しています。

★金木高等学校が70年の歴史に幕

70年の長きにわたり地域に根差した高校として愛されてきた金木高校の歴史が今年度末で幕を下ろすこととなり、地域の方々にはさまざまな思いが去来していることと思います。

10月1日の閉校式典では、生徒代表があいさつで、最後の卒業生となることの寂しさとともに「ここでの学びを原点に地域のために恩返しをしたい」、「『永永無窮(えいえいむきゅう)、いつまでも心の中に』先輩方が築き、受け継いできた金木高等学校への熱い思いを忘れず、最後の金木高生として胸を張って生きていく」と力強く述べていました。本当に素晴らしいあいさつで、込められた熱い思いに大きな感動を覚えました。

『永永無窮、いつまでも心の中に』の言葉のとおり、金木高校はこれからも永遠に歴史にその名を刻み、私たちの心の中で生き続けます。来年3月にこの学舎を巣立つ全生徒17名の皆さんには、誇りを胸に輝かしい将来へ向けて逞しく成長してほしいと思います。

★移動スーパー「とくし丸」がスタートしました！

10月4日、移動スーパー「とくし丸」が開業しました。当市とイトーヨーカ堂との間で移動販売先での高齢者等の見守り支援に関する協定を締結し、日常の買い物に不自由している高齢者等のお宅へご要望に応じて訪問し、必要な食料や生活用品などを販売します。思い思いに商品を手にとって買い物をする「楽しみ」もお届けできればと思っています。

今後は、より多くの方々への「買い物支援」と同時に、地域における重要な「見守り役」として活動いただけるよう、支援してまいります(3ページ掲載)。



『移動スーパー「とくし丸」お披露目式』の様子